

講義名	経営管理論 I		
科目区分	学部専門基礎		
担当教員	柿沼 英樹		
開講期・曜日・時限	前期 水曜日 2時限	授業形態	
	2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 福祉マネジメントコース/2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービス心理コース/2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 スポーツ健康マネジメント/2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービスマーケティング/2014年度 サービス産業学部		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要
<p>企業における経営管理の位置づけと、その主要な活動内容について考える。具体的には、「ヒト・モノ・カネ・情報」といった経営資源を個人や組織の成果に結びつけるための効果的なマネジメントについて、個人や組織、戦略などいくつかのトピックに区切りながら、それらを考える基礎となる理論や考え方、管理手法を概説する。また、企業事例を取り上げながら、学んだことが実際にどう使われているのかについても理解を深める。</p>

到達目標
<p>(1) 企業における経営管理の全体像を説明できる。 (2) 具体的な事例について、学習した内容を踏まえて分析できる。</p>

提出課題
<p>毎回の授業において、その日の内容に関する小テストを実施する。 授業の内容と関連づけた論述を求めるとレポート課題を、2～3回程度提示する。</p>

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
<p>授業回ごと的小テストについては、締切後に Microsoft Teams にて解答の提示と補足解説を行う。 レポート課題については、締切後に Microsoft Teams にて全体向けにフィードバックを行う。</p>

評価の基準
<p>授業回ごと的小テスト40%、レポート課題60%（詳細については講義内で指示する）</p>

履修にあたっての注意・助言他
<p>Microsoft Teams を利用して、講義動画および資料の配信、小テスト・レポート課題の提示・提出、質疑応答など、この授業にかかわるすべての事務を行う。 Microsoft Teams の利用方法については別途、初回授業日の前日までに、履修登録者に Ryuka Portal にて案内する。 教科書を入手済みであることが望ましいが、今般の状況を鑑みて、未入手であることが過度な不利益につながらないように配慮する。</p>

教科書
<p>・経営管理論 上野恭裕、馬場大治 中央経済社 2640 9784502190612</p>

プリント資料及び参考文献
<p><講義資料> 授業回ごとに Microsoft Teams にアップロードするので、各自で確認すること。</p> <p><参考文献> 井原久光 (2008) 『テキスト経営学 [第3版] : 基礎から最新の理論まで』 ミネルヴァ書房。 坂次喜代明・高橋伸夫・小林敦男 (2009) 『経営管理』 有斐閣。</p>

授業計画
<p>第1回 経営管理論A/Iで学ぶこと：講義の全体像や進め方、評価方法など 第2回 企業・株式会社とは：企業と会社、トップ・マネジメントの構造、所有・経営・支配 第3回 古典的管理論：科学的管理法、人間関係論、管理過程論 第4回 近代管理論：組織の要件、組織均衡論、限定された合理性 第5回 モティベーション：実体理論、プロセス理論、モチベーションを高めるマネジメント 第6回 リーダーシップ：管理とリーダーシップ、リーダーシップの基本理論、変革型リーダーシップ 第7回 組織構造のマネジメント：分業と調整、官僚制組織、組織形態 第8回 組織文化のマネジメント：文化の機能と逆機能、文化の形成と変革、経営理念 第9回 経営組織の環境適応：コンティンジェンシー理論、システムとしての組織 第10回 企業戦略のマネジメント：経営戦略、ドメイン、多角化 第11回 競争戦略のマネジメント：持続的競争優位、資源ベース理論、ダイナミック・ケイバビリティ 第12回 イノベーション・マネジメント：イノベーションの種類、イノベーションの源泉、イノベーションを促すマネジメント 第13回 生産活動のマネジメント：大量生産方式、トヨタ生産方式、品質管理 第14回 日本の経営：「三種の神器」論、日本型コーポレート・ガバナンス 第15回 全体のまとめと補足解説：経営管理論A/Iの全体像の再整理</p> <p>第1回～第12回は、教科書の同じ番号の章に対応している。 例外的に、第13回は教科書の第14章、第14回は教科書の第13章・第15章に対応している。 第15回は全体のまとめであり、教科書の特定の章に沿って進めるわけではない。</p>

授業形態（アクティブ・ラーニング）
<p>ア：PBL（課題解決型学習） イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ウ：ディスカッション、ディベート エ：グループワーク オ：プレゼンテーション カ：実習、フィールドワーク</p>

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p><予習> 講義資料（および教科書）を通読し、その授業回の主なトピック、キーワードを確認しておくこと。30分程度。 <復習> 講義資料には概略のみを記載しているので、教科書や参考文献、各種Webサイトなどを参照しながら詳細を補完すること。 また、講義で学んだことが実際の企業経営や自身の職業生活にどのように役立つのかを考えること。合わせて90分程度。 これらのほか、レポート課題への取り組みに、長くかかる人で1課題あたり10時間程度を要する。</p>

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
<p>講義資料（動画・PDF）を、Microsoft Teams にて配信する。 小テストおよびレポート課題は、Microsoft Teams での回答を求める。</p>

実務経験の有無及び活用

備考